

資料

大日寺について

会員 河野 與 一

(住所 佐伯市西中區)

大日寺は申すまでもなく弘法大師を宗祖と仰ぎ、高野山金剛峯寺を大本山とする真言宗のお寺で、佐伯市内船頭所に只一か寺あるお寺であります。これまで会合の席上大日寺の開基秀乘律師のことが何處か話に出まして、九月の集会を大日寺で予定しその席上くわしくお話を、お寺さんから伺うつもりで準備しました。お寺の事情から十月になりまして、その際、研究資料に力を入れ、と存じ、たまたま手に入りまして大日寺住職山本密深師の書かれました『大日寺略傳』を御紹介いたします。

昭和四十五年五月

大日寺略傳

大日寺住職 山本密深 著

当大日寺は慶長十三年(一六〇八)今より三百六十有餘年前秀乘律師が、藩王毛利高政公の信託を得て、武運長久領内の安全の祈禱所として創建せらる。

秀乘律師は讃州長曾我部元親の三男にして、父元親は四國全域を征服し紀泉(紀州和泉)を伺つた武將なり。天正十三年豊臣秀吉が兵を遣はして元親を伐せしむ。元親遂に和を乞ひ讃州、阿波、伊豫の三州を削られ土佐一州を保つ。元親の長子盛親は関ヶ原の役に石田三成(大阪方)に黨し、戦に敗れ東軍(徳川方)に

降り死刑に処せられ、次子信親は天正十四年島津義久が大友義統を攻め取るに元親信親の父子は、仙石秀久と共に義統を援け戸次川(豊後国)を渡りて島津軍と戦う。戦利あるが秀久身と脱して走る。信親留りて敵兵二十余騎を斬りて死す。三男秀親は丸後市の沖の塩飽(本島、宇島手島寺大島の島々より成る)の小領主として勇名を馳せ、朝鮮の役に水軍の大將として進発し、軍艦毛利高政公の指揮下に勇戦す。

慶長五年(一六〇〇)関ヶ原の役に西軍より招かれたるも何れにも参加せず、熟々人の世の有為転変にして興亡常ならざる世を厭ふの念禁じ難く、遂に世を捨て高野山に逃れ薙髪して僧となり岩を秀乘と改む。持戒勤行怠らず、数年にして業成り山を下りて佐伯に來り女島地藏庵にひそかに居る。毛利高政公偶々之を知りて、久しく卿を見ず聞らずも近く我が封内に居ると及び復び武士とならんが重用せん、と。秀乘之を辞して、野神に既世を捨てて佛に帰依したる身故決して世事を願はず、と。高政公それと喜して一寺創設の地を興ふ。現在の太日寺墓地境内は斯くして毛利公より頂いたものである。寺を建てるに於いても毛利公の造営になり、至誠毛利家の武運長久と封内の安寧とを祈願祈禱する事とし、年三十石祈禱料として拝受す。秀乘律師が佐伯に來る時、昔の家来の水軍がお供して來り鶴見所羽出、耳旗、大入島の石間、荒網代、上浦所の夏井、長田等に別れ住みつき漁業を営む。

貞享五年(一六八七)正月二十三日船頭所宇工門方より出火し、船頭所、内所焼失の際大日寺も類焼、更に寛政十年(一七九九)正月二十九日仲町関谷善左衛門方より出火し、城下市街の大半烏有に歸す。其の際大日寺も飛火の爲類焼す。藩より銀一貫目と建築費材の

丈給を受け再建す。現在の本堂は此の時の建造である。文化五年七月護摩堂を藩の御用人作事奉行により建設せらる。斯くの如く城主毛利家が如何に大日寺を信託し保護せられたか伺はれる。

開山秀業律師を第一世とし、密梁第二十二世を継ぐ。此の間第十三世休教孤貫僧正は明敏にして学深く徳高く、真言密教の奥蔵を極め法験新左かにして稀に見る聖僧であつた。京都仁和寺の総法務官の信託を得て其の境内に在る勝功徳院を兼務住職を勤む。第十四世貫道僧正は孤貫僧正の法燈を継ぎ大日寺住職となる。天保三年十一月元代孤貫僧正の遺徳に依り、下馬札、灰筋塀、御紋付葺、翠簾三間を下賜せらる。之に依り門前には下馬札を立て、塀には五本の筋を入れ、本堂内陣には紫縮緬の御紋付の葺(現在も旧三月二十一日に張る)と許され、現在本堂の丸瓦土菊の御紋を用いて居る。如何に藩主毛利公と雖も、門前を通る軒には必ず下馬しなればならなかつたものである。尚久部高請山(東禅寺裏山)は宝曆十一年十一月、藩主より六夜程として預きしもので、久部四圍は文政八年に開設せられた。我が大日寺は九州に於ける真言宗寺院教会三百八十有餘の寺院中一級寺院として知らる。

幸にして此の郡内は宗祖弘法大師の信仰厚く、各部落に大師講あり、佐伯四圍あり。我が大日寺は大師信仰の中心寺として、豊南大師講連合本部を置き、大師信仰の先達相倚り益々大師の信仰培増に努む。当寺は今も檀徒約六百戸あり、信徒多く檀徒総代初め世話人及び檀徒一同其他信者一同の協力援助に依り、本尊聖首宗祖大師の御威光益々揚り、寺門の興隆の出来つつあるは同慶の至りである。

本寺傳は鶴藩略史及び豊田史談会故佐藤鶴谷氏の説

と参考として記す。

昭和四十五年五月

第二十四世 山本 密 梁 記

迨て未月三日(土曜)午後二時に予定してあります大日寺の集会以、凡そ次のようにお願い申してあります。

1. 御中尊 御開帳奉拜

2. 曼荼羅(金剛界・胎藏界)拜見

3. 寺伝古文書、書画、什器等拜見

4. 講話拜聴(会員より問いを尋ねて)

大日寺の歴史、高野山本山並に山内事情

弘法大師御事跡、各世お大師講、八十八ヶ所等

5. 写真撮影(差支ないもの、お許しを得て)

尚住職山本密梁師は、明治三十一年和歌山泉葛城町のお生まれ、高野山大学に学ばれて大正十年七月より大日

寺住職に特命せられ、今日まで三十五年間在職、昨年亦

には権大僧正に補任されています。併せて御紹介申して

おきます。

(以上)

研究

浦代浦観音堂 その他

新会員 高 宮 昭 犬

(住所 米水津村 浦代浦)

朝又はあすかに涼しさを愛する頃となりまして、その候も

も御健祥御活躍の事とお慶お申し上げます。更に先日再度

「佐伯史談」御惠送下さり、まゝにて拜読せたく思ひます。私も

何か村の文化財と心に念じ打たれども一向に埒がつかず、